



Mental Wellness !

〔学生総合相談通信 No.85〕

発行 : 平成30年2月19日

拓殖大学学生支援室

進級や卒業の発表を確認しましたか？自らの人生にかかわる大切なことから目をそむけることなく、的確な対応をすることを、身に付けなくてはなりません。そして、悩みや不安を一人で抱え込まないで、家族や友人、先生方、学生主事…、気軽に話しかける、相談することを忘れないで下さい！

Topic 動悸・めまい・脱力感…、原因は？心配、不安…

心のトラブルは様々です。前回に引き続き「神経症性障害」について、神経症性障害の特徴(2)として、機能性、心身、可逆的側面からの詳細な解説を紹介しします。参考として、同書より「離人症」「離人症性障害」も一部引用・紹介することとします。【以下、『家庭医学大事典(小学館)』より引用】

神経症性障害 (2) (Neurotic Disorders)

◇神経症性障害の特徴(2)

<機能性(非器質性)>

たとえば、不安障害では、強い不安とともに動悸や胸の痛み、不快感などが生じることがあり、身体表現性障害などでは、極端な場合は、脳出血などのときと同じような手足の脱力・まひなど症状がおこることがあります。しかし、神経症性障害によってこれらの症状がおこっているならば、内科的な検査を行っても異常はみられません。脳の病気によって症状が現れている場合は器質性と呼びますが、神経症性障害では、これが存在しないため、非器質性の病気、もしくは機能性の病気と呼びます。逆に、一見、不安障害に似た症状が現れても現実に心臓病が存在したり、いわゆる「ヒステリーっぽい」症状にみえても、神経内科の検査などで異常が認められるならば、これらは神経症性障害とは呼びません。

<障害は心身両面にわたる>

心理的な事柄が原因とはいっても、精神的な症状しか現れないかということではありません。動悸やめまい、脱力感やしびれ感、胸部の痛みなどの身体的な症状がともなうケースが多くみられます。

<可逆的>

神経症性障害は、「機能性の」障害であり、原則的には、うまく治癒すればあとはなんら後遺症や精神的な欠陥を残しません。しかし、たとえば身体表現性障害で歩行困難などの症状が現れて、それが長くつづいたときには、足の筋肉が衰えてしまうなどの二次的な障害が残ってしまう場合がないわけではありません。

○参考：離人症との関係

離人症とは、自分の内界や外界、または自分のからだに関する感覚に変化が生じ、それらに対して疎外感や非現実感を覚えたり、生きている実感が喪失して感じられる状態です。離人症の症状が前面に出て、人格の変化などのほかの症状がみられず、発病に際してなんらかの原因があり、神経症性障害に含まれると判断されたとき、離人症性障害と診断されます。

※離人症性障害 (Depersonalization Disorder)

自分が自分ではない、自分のからだに実感がない、感情がなくなるなど。

大学生活に対する不安や悩みなどがありましたら是非一度、総合支援窓口である学生支援室へ来室して下さい。随時、専門職である学生主事が相談に応じます。

| | | | |
|-----------------|---------|--------------|----------|
| 文京キャンパス | C館2階 | 学生支援室 | 〔学生主事5名〕 |
| 八王子国際キャンパス | 管理研究棟1階 | 八王子学生支援室 | 〔学生主事3名〕 |
| ※月～金 9:00～17:00 | | 土 9:00～15:00 | |

各種相談日のご案内【今年度終了】

- 心の健康相談日—専門医により、心の健康に係わる医学的対処法をアドバイスしています。
 - 法律相談日—本学教員による、法律に係わる諸問題についての相談機会を設けています。
 - 女子学生のための相談日—本学女性教員による、女子学生のための相談機会を設けています。
- ～ 今年度の上記相談日は、終了しました。次年度の日程が決まり次第、お知らせします。 ～

次回発行予定 平成30年3月12日(月)